

稲村勲教授退職記念号発刊に寄せて

札幌学院大学経済学会会長 平澤亨輔
経済学部長

稲村勲先生は本学に昭和51年4月に赴任され、平成18年3月で退職されるまでの30年間にわたり、研究、教育、行政の側面から本学の発展に大きく寄与されました。その貢献に心から感謝するとともに、ここに「札幌学院商経論集」記念号を発刊、献呈いたします。

稲村先生の研究分野は経済学史であり、その研究の中心はアダム・スミスの『国富論』です。稲村先生は、1970年代にマルクス価値論の経済学史的検討をはじめ、ウィリアム・ペティの研究を経て、アダム・スミスにたどり着かれました。そこで「ペティ経済学の枠組みをふまえて、『国富論』を読み直す」（稲村 勲著『国富論』体系再考「あとがき」より）ことにすすみ、さらに「スミス価値論を、投下労働価値説と支配労働価値説（構成価値論）へ分化し、「混在」として解釈することへの根本的疑問とその方法的、内容的克服」（同上）を模索し、そして『国富論』＝スミス政治経済学的体系の再解釈へと進まれました。

その成果はその著「アダム・スミスの政治経済学再考」（稲村勲編著、「経済学の射程」ミネルヴァ書房 第1章）や『『国富論』体系再考』（お茶の水書房）などにまとめられています。特に後者は、稲村先生の研究の集大成とも考えられ、アダム・スミスの「国富論」を第I編から第IV編までを丹念に読みこなして分析をおこない、独自の解釈を試みておられます。その中ではアダム・スミスがみた近代市民社会＝商業社会の経済原理、交換価値法則、分配論や歴史認識、商業社会と国家の関係、国家の収入などが網羅的に取り上げられておられます。とりわけ、アダム・スミスの重商主義の歴史的立場づけについて独自の見解を示しておられます。

稲村先生は、研究面ばかりでなく、大学の行政面でも大きく貢献されています。公職では平成元年4月から3年3月まで教務部長、平成7年4月から11年3月まで広報入試部長、平成11年4月から15年3月まで経済学部長を歴任されました。この間、いろいろな困難な業務を精力的にこなされ、大学が直面している様々な問題に柔軟に対処してこられました。また本学の大学院地域マネジメント研究科の設立に尽力されるとともに平成17年4月から平成18年3月まで地域マネジメント研究科長をつとめられました。

退職後も、本学地域マネジメント研究科の院生とともに、訪問看護や訪問介護を行うNPO法人をたちあげるなど社会的活動を続けておられます。教育面においても稲村ゼミは人気ゼミの一つであり、多くの優れた学生を輩出しています。

このように大学行政面に関わりながらも研究、教育に打ち込んだ姿勢には頭が下がる思いです。今後は、退職後の時間を使い、アダム・スミスの研究をつづけられ、さらなる成果をあげられることを期待して粗辞ながら献呈の言葉とさせていただきます。

2007（平成19年）11月1日